

## 第8期皆川会長就任挨拶

日本赤十字社臨床工学技士会第8期会長を拝命いたしました横浜市立みなと赤十字病院臨床工学部皆川宗輝と申します。

当日本赤十字社臨床工学技士会は平成21年4月18日に本社大会議室にて発足式が執り行われ現在に至ります。平成24年2月24日付本社より「日本赤十字社医療施設職員によって構成される各団体および学会等の登録について」が通達され当会も申請し登録団体運営基準を満たした結果、平成24年3月16日に医療登録第6号となり本社が認める職能団体としてその活動を正式に認められることとなります。

平成23年3月7日付で本社事業局医療事業部へ「日本赤十字社臨床工学技士 技士長ポストについて」を提出し、平成25年4月1日付日本赤十字社医療施設規程改訂において臨床工学技士の技師長職が創設されます。平成24年6月12日付「医療機器と医療材料の共同購入に関する要望書」を本社医療事業部長宛てに提出し、平成26年本社より各施設へ「輸液ポンプ共同購入希望様式」が通達され共同購入が開始となり、現在共同購入品目はシリンジポンプ、人工呼吸器回路、デイスポーザブル蘇生バックと拡充し本社との綿密な連携において共同購入は進められています。

また、本社において臨床工学技士が参画しているものは購買専門部会の他に医学総会評議委員会、チーム医療の推進に関する検討部会、医療安全対策部会が挙げられます。当会発足当時の臨床工学技士による本社への参画は医学総会評議委員会のみでした。今では医学総会において「臨床工学部門」が当然の様に割り振られています。しかしこれも当会発足当時は「臨床工学部門」の括りすら無かったことが思い出されます。当会が発足した当初よりその活動について、齋藤郁郎初代会長、熊谷誠元会長、脇田邦彦前会長は真摯に会員各位の声を傾聴し、技士会運営にその声を反映し活動を続けてきた経緯があります。そしてその活動の結果、結実したものがあればそれは会員全員で成し得た成果物であると考えます。

平成20年10月9日に日本赤十字社臨床工学技士会設立準備会が設置され、その際技士会設立後の運営方針について「全国の赤十字施設の臨床工学技士の立場がバラバラであり本社に掛け合っても相手にしてもらえない。もっと連携を深めみんなの意見として本社へ掛け合えるような組織作りをしていきたい」と言う想いが議事録に残っています。

「連携を深めみんなの意見を本社へ伝えること」が活動基盤となり一貫して継承されてきた活動理念であると感じております。

この度、第8期会長を拝命し重責について身が引き締まる思いである一方、発足当時に思いを巡らせ当会活動における原点を再度確認し、会員の皆様と想いを共有し鋭意精進して参りたいと考えております。

何卒、各位のご理解とご協力を賜りたく心よりお願い申し上げます。



横浜市立みなと赤十字病院  
皆川 宗輝 会長